

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について」に関するアンケート  
(地域日本語教育コーディネーター研修)

○アンケート回答数:9 (※地域日本語教育コーディネーター研修参加者:21名)

回答者の所属	地方自治体(教育委員会を含む)	国際交流協会	NPO法人	任意団体	その他
アンケート回答数	1	3	3	2	0

【質問1, 2】について

質問1(標準的なカリキュラム案について)	質問1-1(カリキュラム案をどこで最初に知ったか)	質問1-2(カリキュラム案をどこで最初に入手したか)	質問2(これまでにカリキュラム案を活用した事があるか)	質問2-4(今後、カリキュラム案を活用する予定があるか)	
研修会以前から知っていた	7 文化庁HP	0 文化庁に申し込んで取寄せた	0 ある	1 ある	7 ※いずれも時期については「未定」と回答
研修会で初めて知った	0 文化庁日本語教育大会	4 所属団体に配布された	5 ない	6 ない	1
無回答	2 知人から	0 日本語教育大会で入手	3 無回答	2 無回答	1
	所属団体に配布された	4 文化庁HPからダウンロード	0		
	学会や研究会・シンポジウム等	0 地域日本語コーディネーター研修会で入手	1		
	その他	1 その他	0		

※質問2-3, 標準的なカリキュラム案で役に立った点・良かった点については「研修時に講師が教材づくりを指導した」、(国際交流協会), 質問2-4, 標準的なカリキュラム案で改善が必要だと思われる点については「使い方が分かれば利用しやすいと感じた」と回答。

【質問3】カリキュラム案についての御意見・御感想

所属	回答
NPO法人	来日間もない人から長く定住されている人まで広く使用できるものであると思う。このカリキュラムを基にそれぞれの地域性を盛り込んで各教室で用いていくことができるのではないだろうか。
NPO法人	まだ中身をじっくり読み込んでいないので何ともいえませんが、思っていたよりもかなり本格的な内容といった印象です。
国際交流協会	子どもを連れての来日・母国からの呼びよせが増えています。母国の教育制度との違い、教育や学校とのやりとりなどで言葉が分からず不都合の生じる例があります。とても重要な事ですので、カリキュラム案に入れてほしいと思います。 (例) 母国で小5終了、小6に進学したばかりなのに言葉が通じず、年齢相当の中学編入となってしまった。
任意団体	確かに生活する上で必要な項目なのですが、ゴミだし、登録、震災など学習者の多くが好まれない事例が多い。楽しい事、世界が広がる事(知らなかった事・分らなかった事が分かる、驚きのある事)などがよいと思う。例えば、愛情表現は大変喜ばれた。実利的すぎると喜ばれない。
任意団体	(無回答)
地方自治体(教育委員会含む)	どのように標準的なカリキュラム案を活用していったらよいのか分からない。
NPO法人	学習の目標・手順・材料も揃った。それを料理するには、日本語教育の専門的な知見が必要に思われる。当会では、教材の作成を試みてみたいと考えている。
国際交流協会	実際にこのカリキュラムを使いこなすには、それなりのスキルが必要だと思われるので、「Ⅲ 今後の課題」で述べられているように、使い方に関する研修の実施を期待したい。
国際交流協会	(無回答)

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について」  
に関するアンケート

現在、文化審議会国語分科会日本語教育小委員会では、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について（以下、標準的なカリキュラム案と言う）の活用方法を示したガイドブックや教材例についての審議を行っております。

ガイドブックや教材例をより有効に活用されるものとするため、標準的なカリキュラム案についての御意見・御感想をお聞かせください。なお、アンケートの結果は、日本語教育小委員会で報告し、ガイドブックや教材例についての審議の参考にさせていただきます。

I 御所属を教えてください。（該当するものに○を付けてください。）
<input type="checkbox"/> 地方自治体（教育委員会を含む。） <input type="checkbox"/> 国際交流協会 <input type="checkbox"/> NPO法人 <input type="checkbox"/> 任意団体 <input type="checkbox"/> その他（ ）

II 標準的なカリキュラム案に関して、以下の質問にお答えください。 （該当するものに○を付けてください）
---

<b>質問 1</b> 標準的なカリキュラム案について
<input type="checkbox"/> 本研修以前から知っていた （⇒1-1, 1-2, <b>質問 2</b> , <b>質問 3</b> にお答えください）
<input type="checkbox"/> 本研修で初めて知った （⇒裏面, <b>質問 3</b> にお答えください）
<b>1-1</b> 標準的なカリキュラム案について、どこで最初に知りましたか。
<input type="checkbox"/> 文化庁ホームページ <input type="checkbox"/> 文化庁日本語教育大会 <input type="checkbox"/> 知人から <input type="checkbox"/> 所属団体に標準的なカリキュラム案が配布された <input type="checkbox"/> 学会や研究会、シンポジウムなどのイベント <input type="checkbox"/> 知人から <input type="checkbox"/> その他（以下、具体的に ）

<b>1-2</b> 標準的なカリキュラム案について、どこで最初に入手しましたか。
<input type="checkbox"/> 文化庁に申し込みを行い、取り寄せた <input type="checkbox"/> 所属団体に標準的なカリキュラム案が配布された <input type="checkbox"/> 日本語教育大会で入手した <input type="checkbox"/> 文化庁ホームページからダウンロードした <input type="checkbox"/> 今回の研修（地域日本語教育コーディネーター研修）でもらった <input type="checkbox"/> その他（以下、具体的に ）

- 質問2** これまでに標準的なカリキュラム案を活用したことがありますか。
- 活用したことがある (⇒質問2-1～2-3, **質問3**にお答えください)
- 活用したことがない (⇒質問2-4, **質問3**にお答えください)

**2-1** 標準的なカリキュラム案を具体的にどのように活用しましたか。(プログラム作成のために活用した場合, そのプログラムの対象者, 人数, 学習目的, 活用方法についてお書きください。)

**2-2** 標準的なカリキュラム案で役に立った点・良かった点についてお書きください。

**2-3** 標準的なカリキュラム案で改善が必要だと思われた点をお書きください。

**2-4** 今後, 標準的なカリキュラム案を活用する予定がありますか。

- ある    ない
- └─┬─▶ 活用時期が決まっている (      年    月頃)
- 未定

**質問3** 標準的なカリキュラム案について, 自由に御意見・御感想をお書きください。

<アンケート提出方法>

郵送, FAX, メール of いずれかの方法で下記提出先に12月7日(火)までに御提出願います。(※メールの場合, アンケート用紙(電子媒体)をお渡しすることも可能です。下記, メールアドレスまで御連絡ください。)

**【アンケート提出先及び本件問合せ先】**

文化庁文化教育部国語課 日本語教育専門職 山下  
〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2  
電 話 : 03 (5253) 4111 (内線) 2644  
FAX : 03-6734-3818  
メール : nihongo@bunka.go.jp

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業  
地域日本語教育コーディネーター研修 実施要項

平成22年8月26日  
文化部長決定

1 趣旨

地域において日本語指導者に対する指導的な立場を果たすことが期待されている者等を対象に、多文化共生社会の基盤づくりに資する日本語教育を推進する専門的人材としての「地域日本語教育コーディネーター」に必要な能力について理解を深め、その向上を図ることを目的とした研修を開催する。

2 開催日、場所

研修Ⅰ：平成22年11月29日（月）・30日（火）、文部科学省内会議室

研修Ⅱ：平成23年3月3日（木）、文部科学省内会議室

3 主催 文化庁

4 対象者

次のいずれかに該当する者で、地方自治体（都道府県及び市町村）又は国際交流協会等の推薦を受けた者。なお、すべての日程に参加可能な者。

- （1）地域において日本語指導者に対する指導的な役割を果たすことが期待されている者、又は指導的な立場にある者。
- （2）地方自治体・国際交流協会・地域の日本語教室等で日本語教育プログラムの編成に携わっている者。

5 定員

20名（募集定員を超えた場合は、選考・抽選を行う）

6 内容

○研修Ⅰ

- ・地域における日本語教育の実践事例の報告・検討
- ・地域の課題や外国人のニーズに対応した日本語教室の運営や教室活動の検討
- ・それぞれの地域において実践活動を行う際の課題の設定 等

○研修Ⅱ

- ・研修Ⅰの後にそれぞれの地域で行う実践活動の成果・課題の発表
- ・全体ふりかえり 等

7 日程・講師

別途定めることとする

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業  
地域日本語教育コーディネーター研修 募集案内

文化庁文化語部国語課

## 1 目的

地域において日本語指導者に対する指導的な立場を果たすことが期待されている者等を対象とした研修を行い、地域日本語教育コーディネーターに求められること（①～⑤）と、そのために必要な能力について理解を深め、「地域日本語教育のデザイン力」の向上を図る。

- ①【問題把握・課題設定】 地域日本語教室の現状と問題を把握し、課題を設定する力
- ②【ファシリテーション】 課題解決のプロセスを可視化し、活動を推進する力
- ③【連携（ネットワーク）】 組織内外の調整や、地域や組織や人の力をつなぎ、協働を進める力
- ④【リソースの把握・活用】 日本語教育のリソースを把握し、課題に応じて適切に活用する力
- ⑤【方法の開発】 「生活者としての外国人」に適した日本語教育の方法を開発する力

## 2 開催日程

研修Ⅰ：平成22年11月29日（月）～30日（火）

（実践活動期間：平成22年12月～平成23年2月）

研修Ⅱ：平成23年3月3日（木）

## 3 場所

文部科学省東館13F1～3会議室（東京都千代田区霞が関3-2-2）

## 4 対象者

次のいずれかに該当する者で、地方自治体（都道府県及び市町村）又は国際交流協会等の推薦を受けた者。なお、研修Ⅰ、Ⅱのすべての日程に参加可能な者。

- （1）地域において日本語指導者に対する指導的な役割を果たすことが期待されている者、又は指導的な立場にある者。
- （2）地方自治体・国際交流協会・地域の日本語教室等で日本語教育プログラムの編成に携わっている者。

## 5 定員

20名（募集定員を超えた場合は、選考・抽選を行います）

## 6 講師（五十音順、敬称略）

品田潤子（公益社団法人国際日本語普及協会 日本語授業部コーディネーター）

山田泉（法政大学 教授）

米勢治子（東海日本語ネットワーク 副代表）

## 7 事例報告者（五十音順、敬称略）

土井佳彦（とよた日本語学習システム システム・コーディネーター）

堀永乃（財団法人浜松国際交流協会 チーフコーディネーター）

宮崎妙子（公益財団法人武蔵野市国際交流協会 日本語学習支援コーディネーター）

ヤン・ジョンヨン（群馬県日本語教育支援政策研究会 副代表）

## 8 研修の概要

項目(時間)	内 容	講師等
<b>■研修Ⅰ 平成22年11月29日(月)・30日(火)</b>		
オリエンテーション (0.5時間)	コーディネーターに求められることと、そのために必要な能力等について概観し、研修のねらいを理解する。	文化庁
実践事例報告① (1.5時間)	地域における日本語教育の実践事例についての報告・検討を通して、コーディネーターに求められることのうち【問題把握・課題設定】【ファシリテーション】【連携(ネットワーク)】に必要な能力について理解する。	堀永乃 宮崎妙子
実践事例報告② (1.5時間)	地域における日本語教育の実践事例についての報告・検討を通して、コーディネーターに求められることのうち【リソースの把握・活用】【方法の開発】に必要な能力について理解する。	土井佳彦 ヤン・ジョンヨン
演習① (2時間)	「生活者としての外国人」が日本語を学び、地域社会に参加していくプロセスを分析し、日本語教室を企画・運営するために必要なことについて学ぶ。	米勢治子
演習② (2時間)	日本語教育の様々なリソースの活用の仕方と適切な方法について学び、教室活動の具体的な進め方について理解する。	品田潤子
演習③ (1時間)	「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について理解する。	山田泉
実践に向けて (1.5時間)	これまでの研修内容を踏まえて実践活動の課題を設定し、効果的な実践活動の進め方について検討する。	米勢治子
ふりかえり (1時間)	研修Ⅰ全体のふりかえりを行う。	品田潤子
<b>■実践活動 平成22年12月～平成23年2月</b>		
実践活動	それぞれの参加者が関わっている現場において、研修Ⅰで設定した実践課題に取り組む。実践活動の成果・課題等について整理し、研修Ⅱで発表を行うための準備をする。	
<b>■研修Ⅱ 平成23年3月3日(木)</b>		
実践活動発表 (3時間)	平成22年12月から平成23年2月までに行った実践活動の成果を発表し、相互に学ぶ。	品田潤子
全体ふりかえり (2時間)	研修Ⅰ、実践活動、研修Ⅱを通して学んだコーディネーターに必要な能力について理解を深める。	米勢治子

## 9 日程

### 研修Ⅰ

	10:00	10:30	11:00	12:30	13:30	15:00	15:15	17:15
11月29日(月)	受付	オリエンテーション	実践事例報告①	昼食・休憩	実践事例報告②	休憩		演習①

	10:00	12:00	13:00	14:00	15:30	15:45	16:45
11月30日(火)		演習②	昼食・休憩	演習③	実践に向けて	休憩	ふりかえり

### 研修Ⅱ

	10:00	10:30	12:00	13:00	14:30	14:45	16:45
3月3日(木)	受付	実践活動発表	昼食・休憩	実践活動発表	休憩		全体ふりかえり

## 10 申込方法

別紙に必要事項を記入し、平成22年10月8日(金)必着で、郵送又はファックスにより下記までお申し込みください。

受講可否については、10月末までに申込者全員に通知を送付する予定です。

応募時に記載いただいた個人情報は、本研修実施のためにのみ利用します。

## 11 問い合わせ先

文化庁文化部国語課 日本語教育専門職

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

TEL: 03-5253-4111 (内線2644) FAX: 03-6734-3818

E-mail: nihongo@bunka.go.jp